

みずほマーケット・トピック(2024年2月22日)

内容 1. 為替相場の動向 2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

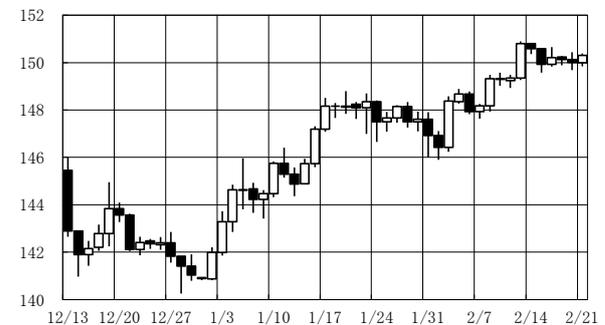
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は、先週の米1月消費者物価指数(CPI)の良好な結果以降の高値圏を維持、150円台前半でもみ合い推移となった。週初19日、150.14円でオープンしたドル/円は、米国休場の中、下に往って来い。150円ちょうどを挟むレンジで、総じて方向感に欠ける値動きとなった。20日、ドル/円は新規材料に欠ける中、150円台前半でじり高推移し、一時150.44円まで上昇。海外時間は、米金利低下や米株安に加えて、米1月景気先行指数の弱い結果も重しとなり、一時週安値の149.70円まで軟化した。その後150円台に戻したものの、上値重い推移となった。21日、ドル/円は材料難の中で、150円ちょうどを挟みレンジ推移。海外時間は、米金利上昇を背景に、150円台前半でじり高となった。公表されたFOMC議事要旨(1月会合分)は、早期利下げへの慎重姿勢を崩さないややタカ派的な内容だったが、相場への影響は限定的となった。本日のドル/円は、円売り相場の中で、週高値を更新しながら取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは、米金利低下が下支えとなり、週半ばに上昇した。週初19日、1.0786でオープンしたユーロ/ドルは、NY 時間に一時1.07台半ば付近へ軟化する場面も見られたが、米国市場が休場で新規材料に乏しく、総じて1.0780付近での小動きに終始した。20日、ユーロ/ドルはアジア時間に一時週安値の1.0762まで値を下げるも、海外時間では米金利低下が支援材料となり、一時週高値となる1.0839まで上昇した。注目されたユーロ圏10~12月期妥結賃金は7~9月期から鈍化したのが、市場の反応は限定的だった。21日、ユーロ/ドルは1.08台前半でもみ合い推移が継続。欧州時間に独金利が低下する局面で1.08台を割り込むも、その後は独金利の反転上昇を受けて1.08台を回復した。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.08台前半で取引されている。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週		
		2/16(Fri)	2/19(Mon)	2/20(Tue)	2/21(Wed)
ドル/円	東京9:00	149.95	150.14	150.27	149.97
	High	150.65	150.19	150.44	150.40
	Low	149.85	149.88	149.70	149.86
	NY 17:00	150.23	150.13	150.00	150.30
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0773	1.0786	1.0774	1.0810
	High	1.0787	1.0789	1.0839	1.0825
	Low	1.0733	1.0763	1.0762	1.0790
	NY 17:00	1.0776	1.0780	1.0809	1.0819
ユーロ/円	東京9:00	161.53	161.91	161.93	162.13
	High	161.92	161.91	162.36	162.62
	Low	161.45	161.56	161.77	161.95
	NY 17:00	161.86	161.74	162.14	162.62
日経平均株価		38,487.24	38,470.38	38,363.61	38,262.16
TOPIX		2,624.73	2,639.69	2,632.30	2,627.30
NYダウ工業株30種平均		38,627.99	-	38,563.80	38,612.24
NASDAQ		15,775.65	-	15,630.78	15,580.87
日本10年債		0.73%	0.73%	0.73%	0.72%
米国10年債		4.28%	-	4.27%	4.32%
原油価格(WTI)		78.46	-	77.04	77.91
金(NY)		2,024.10	-	2,039.80	2,034.30

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、29日(木)に1月個人消費支出(PCE)デフレーターが公表される。12月の総合ベースの結果は、+2.6%(前年比、以下同様)と、市場予想および11月と一致した。コアベースでは+2.9%と市場予想の+3.0%および11月の+3.2%を下回った。総合、コアベースいずれも、3年弱ぶりの低水準の伸びである。ダラス連銀が試算するトリム平均を確認しても、+3.3%と2年以上ぶりの低水準となっており、物価の基調も下向きと考えてよい。現状、財価格、サービス価格双方でディスインフレが広がっているものの、財価格の一層の下落は難しいと考えられる中、やはりサービス価格の動向がインフレ全体の趨勢を規定するだろう。なお、ブルームバーグの事前予想では、1月の結果に関し総合ベースで+2.4%、コアベースで+2.8%と見込んでいる。
- 欧州では、3月1日(金)にユーロ圏2月消費者物価指数(HICP、速報)が公表予定。1月の結果(速報)は総合ベースで+2.8%(前年比、以下同様)と12月の+2.9%から伸びが減速。また、エネルギー、食料品、アルコール、タバコを除いたコアベースでは+3.3%と12月の+3.4%から減速、22か月ぶりの低い伸び率となった。前年比の裏が出る格好で、エネルギー価格のマイナス寄与の幅が縮小する傾向は継続しているが、エネルギーを除く鉱工業財は+2.0%と順調な鈍化を継続している。他方、サービス価格は+4.0%と3か月連続で横ばいであり、やや下げ止まり感も見て取れる。物価・賃金の負のスパイラルを見極めるうえで、サービス価格がECBハト派転換の最後の砦となるだろう。

	本 邦	海 外
2月23日(金)		<ul style="list-style-type: none"> 独 10~12月期 GDP (確報) 独 2月 IFO 企業景況感指数
26日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 1月企業向けサービス価格指数 	<ul style="list-style-type: none"> 米 1月新築住宅販売件数
27日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 1月消費者物価指数 	<ul style="list-style-type: none"> 独 3月 GfK 消費者信頼感 米 1月耐久財受注 (速報) 米 2月コンファレンスボード消費者信頼感
28日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 12月景気動向指数 (確報) 	<ul style="list-style-type: none"> ユーロ圏 2月消費者信頼感 (確報) 米 10~12月期 GDP (改定値)
29日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 1月小売売上高 1月鉱工業生産 (速報) 	<ul style="list-style-type: none"> 独 2月消費者物価指数 (速報) 米 1月個人所得/支出 米 1月個人消費支出デフレーター
3月1日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 1月失業率/有効求人倍率 2月製造業 PMI (確報) 2月消費者態度指数 	<ul style="list-style-type: none"> ユーロ圏 2月製造業 PMI (確報) ユーロ圏 2月消費者物価指数 (速報) ユーロ圏 1月失業率 米 2月製造業 PMI (確報) 米 2月ミシガン大学消費者マインド (確報) 米 2月 ISM 製造業景気指数

【当面の主要行事日程(2024年3月~)】

ECB 政策理事会 (3月7日、4月11日、6月6日)
 日銀金融政策決定会合 (3月18~19日、4月25~26日、6月13~14日)
 FOMC (3月19日~3月20日、4月30日~5月1日、6月11~12日)
 IMF 世銀・年次総会 (4月19日~21日)

金融市場部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌大輔 (TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2024年2月21日	1月貿易収支を受けて～24年も円売り優勢変わらず～
2024年2月20日	日独GDP逆転の本質～為替要因だから良いのか？～
2024年2月16日	週末版
2024年2月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年1月分) 本邦10～12月期GDPを受けて～総崩れ～
2024年2月14日	「新時代の赤字」と原油と同質性
2024年2月13日	投信経由の対外証券投資～進む資産運用立国の未来～
2024年2月9日	週末版
2024年2月8日	仮面の黒字国～戻らぬ円とデジタル農奴～
2024年2月7日	PPPやREERをどう解釈すべきか～インフレ調整という未来～
2024年2月2日	週末版(ソフトランディングと賃金減速～正当性を帯びる「夏」の重要性～)
2024年2月1日	FOMCを終えて～為替市場が狙う「次の獲物」～
2024年1月29日	日本円の現在地～独歩安で始まった2024年～
2024年1月25日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「夏」がキーフレーズ～)
2024年1月24日	日銀金融政策決定会合～織り込んででも円安の怖さ～
2024年1月23日	ECB政策理事会プレビュー～勝利宣言はまだ～
2024年1月22日	「家計の円売り」と「損保のレバトリ」の違い
2024年1月19日	週末版
2024年1月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年12月分) 「貯蓄から逃避」で進む円の独歩安～現状整理～
2024年1月17日	「新時代の赤字」の定点観測と今後の需給イメージ
2024年1月16日	マイルド・キャピタルフライト(後編)～需給への評価～
2024年1月15日	マイルド・キャピタルフライト(前編)～家計の円売り～
2024年1月12日	週末版
2024年1月11日	ユーロ圏インフレ率の近況～再浮揚の読み方～
2024年1月10日	震災と旅行収支の関係について～2011年からの教訓～
2024年1月9日	米大統領選挙の考え方～メインシナリオを覆すか～
2024年1月5日	週末版(能登半島地震の影響について～構造変化を経て「普通の通貨」になった円～)
2024年1月4日	24年、持つべきイメージは「長期円安局面の小休止」
2023年12月22日	週末版(本邦の家計金融資産動向について～外貨性資産比率は「根雷」のイメージで～)
2023年12月20日	日銀金融政策決定会合～解除時期と円相場への影響～
2023年12月18日	2024年、円需給の考え方～円転率や貿易収支が課題～
2023年12月15日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「利上げ一利下げ」の考え方～)
2023年12月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年11月分) FOMCを終えて～突然変わった節目、日銀への影響も～
2023年12月13日	最近の需給環境について～24年も脆弱性は残る～
2023年12月12日	12月日銀会合の行方～政治的観点、2000年との比較～
2023年12月11日	24年ドル/円見通し外観～「主戦場の変化」を確認する年～
2023年12月8日	週末版(円高と植田発言の読み方～チャレンジの真意～)
2023年12月7日	ECB、シュナーベル発言の読み方～拡大解釈を警戒～
2023年12月6日	対内直接投資の胎動と今後への展望
2023年12月4日	24年、円高シナリオの鮮度～130円割れはあれど～
2023年12月1日	週末版(ユーロ圏11月消費者物価指数の読み方～「最後の砦」となるサービス業～)
2023年11月28日	ユーロ圏経済とECB金融政策の現状と展望
2023年11月24日	週末版(貿易赤字国が迎える米利下げ～通貨高は当たり前ではない～)
2023年11月21日	円高とPPPの考え方～収斂するのか、しないのか～
2023年11月20日	過去最安値に肉薄する円の目実効相場(NEER)
2023年11月17日	週末版(本邦10月貿易統計を受けて～繰り返される23年と同じ言説～)
2023年11月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年10月分) 1年ぶり2度目のCPIショックをどう評価すべきか
2023年11月14日	ユーロ/円、15年ぶりの高値をどう理解すべきか
2023年11月13日	24年は「家計の円売り」元年になるか～外貨資産の現状～
2023年11月10日	週末版(23年度上期経常収支の読み方～CFベースの黒字は10分の1に～)
2023年11月9日	「欧州の病人」は戻って来たのか？～企業の「ドイツ離れ」～
2023年11月2日	週末版
2023年10月30日	150円台定着を受けて～その背景と今後の論点整理～
2023年10月27日	週末版(ECB政策理事会を終えて～再投資停止を阻むイタリア国債利回りの上昇～)
2023年10月26日	ECBプレビュー～利上げ代替としてのMRR引き上げ～
2023年10月23日	サービス収支に透ける製造業の行動変化
2023年10月20日	週末版
2023年10月19日	本邦9月貿易統計～起きるべくして起きた23年の円安～
2023年10月18日	再び直面する天然ガスのリスク～ユーロ安考察～
2023年10月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年9月分)
2023年10月13日	週末版(日独GDP逆転について～「弱い円」が原因としても・・・)
2023年10月12日	カネ関連収支でも広がるサービス赤字
2023年10月11日	赤字が広がるデジタル関連およびカネ関連の国際取引
2023年10月10日	円安シナリオを延命させる中東リスク
2023年10月6日	週末版
2023年10月5日	「底打ち懸念」も漂う米経済～米金利上昇の考え方～
2023年10月4日	続・インフレを輸入する日本～「人手不足」の波～
2023年10月3日	ユーロ圏のインフレ情勢とECBの「次の一手」について
2023年10月2日	インフレを輸入する日本～インフレ持続性の考え方～
2023年9月29日	週末版
2023年9月26日	円安シナリオを長続きさせる貿易赤字
2023年9月25日	日銀金融政策決定会合～マイナス金利解除の行方～
2023年9月22日	週末版
2023年9月21日	FOMCを終えて～「2024年こそ利下げの年」という危うさ～
2023年9月20日	23年4～6月期資金循環統計～「貯蓄から投資」の胎動～
2023年9月19日	「欧州の病人」は戻って来たのか？
2023年9月15日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「事実上の利上げ停止宣言」の読み方～)
2023年9月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年8月分)
2023年9月13日	ECB政策理事会プレビュー～「見送り+α」の公算～
2023年9月12日	日銀の政策運営に関するQ&A～読売報道を受けて～
2023年9月11日	7月国際収支の読み方～為替需給変わらず～
2023年9月8日	週末版
2023年9月7日	日本の貿易収支が直面する2つの想定外
2023年9月6日	海外出張で体感した内外価格差について
2023年9月4日	BRICS共通通貨は「いつか来た道」
2023年9月1日	週末版(ECB政策理事会議事要旨と8月消費者物価指数について～9月利上げの行方～)
2023年8月30日	夏を終えても変わらなかった円の独歩安
2023年8月28日	ジャクソンホールで浮き彫りになるインフレに対する「当事者」感
2023年8月25日	週末版
2023年8月24日	ユーロ圏経済の悪化とユーロ相場の現状